

つながりを切らない  
孤立させない  
新しいつながり方を提案する



## 第46号

発行日 2021年10月11日(月)

発行元

「つながりを切らない」情報・交流ネットワーク

〒981-0932

仙台市青葉区木町16-30 シンエイ木町ビル1F (CLC内)

FAX: 022-727-8737 E-Mail: t-net@clc-japan.com

ホームページ: <https://www.t-net.online/>

- ・民生委員、児童委員の皆さんに…
- ・サロンや地域のボランティアの皆さんに…
- ・配食のお手紙に添えて…

こんなふうに使ってね

この通信の印刷、配布はご自由にご利用ください。記事やイラストの一部を転載・転用する場合は、t-net@clc-japan.comまでご連絡をお願いいたします。

## コロナ禍3つのサロンが合同で新たな交流を生む

福島県会津坂下町は、福島県の会津盆地の西部に位置し、人口14,733人が暮らす、高齢化率36.3%のまちです(2021年9月1日現在)。

若宮地区は、町の中央部に位置し、約2,000人が暮らしています。2018年に地区で支え合いの地域づくりを学ぶ講演会を開催すると、受講した住民から、「普段、畑などで会ってはいるけれど、自分たちの地域でも月1回くらい集まってお茶を飲んだり運動できる場があればいいね」という声が上がリ、3つのサロンが立ち上がりました。

約80世帯が暮らす勝方地区のサロンには、20人ほどが参加し、折々にミニスポーツ大会、クリスマス会、忘年会などを開催しています。サロンではお漬けものや干し柿、煮物など腕自慢の参加者が手料理を持ち寄り、サロンのあとのお茶会の時間も盛り上がります。

## 若宮交流サロン (福島県会津坂下町)

約130世帯が暮らす牛沢地区の一部をエリアとした寿ノ宮会では、7人ほどが毎回顔を合わせます。マイナンバーカードの手続き方法を学んだり、軽スポーツも楽しめます。参加する8人のうちの3人はご近所同士で常にお茶飲みをしています。寿ノ宮会があることで、「少し遠方からも、仕事をしている人も来れる」と好評です。

63世帯が暮らす中村地区で開催される「ほっこりサロンポットマムin中村」には15人ほどが集まります。サロンの由来でもある「ざる菊」の植栽、開花時期には鑑賞会を行っています。そのほか、脳トレや軽スポーツも楽しんでいます。そして終了後のお茶飲みが何よりの楽しみです。

## 地区のサロンが中止で、楽しみの場が…

新型コロナウイルス感染症の影響で、町の公共施設に利用制限がかかることと

なり、サロンは休止していました。その間も、近所の人同士、野菜のおすそ分けをしたり、道端で出会ったときには立ち話をするものの、いままでのサロンのようにゆっくりとおしゃべりを楽しむことができなくなっていました。「次のサロンまでの1か月の間にこんなことがあった」と話すことを楽しみにしていた「身内が亡くなり悲しい思いをしていたが、話せる場がない」などの声も聞こえてきていました。

## 交流サロンで新たなつながりが生まれる

感染がおさまリ、各サロンも再開。そんななか、各サロンの代表が集結。コミュニティセンターの事務局の宮本あけみさんも加わり、「若宮地区全体でまとまり、新たなつながりを生み出したり、それぞれのサロンの情報交換をしたい」と思いは一致。3地区の合同サロンの構想が芽生えました。

会場となる「コミュニティセンターの菊地一正センター長とは、感染予防のための策を相談し、徹底することを確認し合い、2020年9月から2か月に1回(20



若宮交流サロン



勝方サロン。講師のお話を聞いて学び合う



寿ノ宮会。笑顔で体を動かす



中村サロンでジャンボカルタ取り

**つながるポイント**  
・サロンの世話人の課題共有で新たな活動のきっかけが生まれる  
・身近なサロンの相乗効果でつながりの輪が広がる

21年度からは月1回の若宮交流サロンがスタートしました。各地区のサロン参加者のほか、若宮グラウンドゴルフのメンバーなども参加し、新しいつながりも生まれました。  
参加者からは、「子どもの中学校のPTA以来、久しぶりに会った」という声も聞かれます。サロン代表の杉山初子さんは、「1日も早くコロナが終息し、みんな元気に思い切り活動できる場になることを願っています」と話してくれました。町社会福祉協議会の生活支援コーディネーター、鈴木葉子さんは、「地域の皆さんの思いをかたちにしたサロンが、同じ若宮地区でもなかなか出会うことができない人たちの再会のきっかけになった。今後も感染対策に気をつけながら、各地区のサロンとともに盛り上がっていければ」と話します。

# イベントをとおして地域と子どもをつなぐ

## 夏休み木工チャレンジ (東京都小金井市)

夏休み木工チャレンジは、東京都小金井市で2015年から始まった、小学6年生以下の子どもたちを対象とした木工コンテストです。子どもたちは小金井市内の店舗など23か所で木材パーツのキットを購入し、夏休みの間に作品をつくり、表彰式の会場ともなる市内のホールに提出します。作品は表彰式までの間、ホールのロビーで展示され、優秀作品は表彰式イベントで表彰・記念品がもらえます。

### それぞれの思いが重なり、子どもたちのためのイベントを

夏休み木工チャレンジを主催するのは、木工チャレンジ実行委員会。ですが、共催、後援、協賛、協力という形で、市内の企業や店舗、行政、学生などさまざまな職種、肩書の人たちが関わっています。

実行委員会の一人、NPO法人地域の寄り合い所また明日の森田真希さんは、8



2021年度表彰式  
(撮影のためにマスクを外していただきました)



作品を展示。来場者の感想は作者本人に贈られる

### 日常のつながりが広がる

夏休み木工チャレンジのチラシ3,000枚ほどが市内の小学校をはじめ、観光協会などをつうじて各家庭に届きます。2021年は市内23か所の事業所などで木工キット(1セット500円)を購入できる

ほかに、新型コロナウイルス対策からオンラインでの販売も実施しました。準備した900セットはあっという間に完売。そして、市内の32の事業所は、作品づくりに活かす廃

材などを無料提供しました。

新型コロナウイルスの影響は、子どもたちの作品にも表れています。2020年度のグランプリは、祖母と御朱印帳を持つての寺社仏閣めぐりが好きだという女の子の作品が選ばれました。「自由に出来ることのできないなら、自分で神社をつくる」という思いがこもった作品です。2021年度には、行けなかった臨海学校のかわりに先生が工夫して開催してくれたお祭りの様子を表現した作品がグランプリに。「楽しみにしていた行事ができなくても、楽しい仲間といることが幸せだと気づかされた」と森田さんは話します。

2020年度から作品の提出をオンラインでも受け付けたことにより、コロナ禍への対応というだけでなく、長期入院の子どもや市外に住む人も参加が可能となるなど、オンラインだからこそ広がりに見せています。

森田さんは、「地域で子どもが育つというのは、教育や福祉だけでなく、そのまちに住むみんなまで考えていかなければならないこと。お店との交流をつうじて顔の見えるつながりが広がり、安心して子育て、子育てができる小金井になれば」と語ります。

### つながるポイント

- ・異業種の思いをつないで地域を盛り上げる
- ・お店と子どもが知り合い、安心・安全なまちづくり

### 編集部からのお知らせ

「つながる通信」が本になりました！  
「withコロナ 新しい生活様式で進める地域づくり～地域共生社会を見据えた地域活動のヒント集～」、絶賛発売中です。  
詳細はコチラのQRコードからどうぞ。



「つながりを切らない」  
情報・交流ネットワークで  
最新情報をチェック!

「つながりを切らない」  
情報・交流ネットワーク  
<https://www.t-net.online/>



好評につき  
増刷しました

## ＜各地の実践もお寄せください！＞

「つながる通信」では、各地での実践を募集しています。「わがまちでこんな取り組みをしている」「私たちはこんな工夫をして、気になる人とつながっている」、そんな情報を編集部までお寄せください。後日、編集部より電話などで取材をさせていただき、本通信やホームページ等で紹介させていただきます。情報は、E-mail:t-net@clc-japan.com、fax:022-727-8737まで。E-mailの場合は、タイトルを「情報提供」としていただき、①活動内容、②ご担当者名、③ご連絡先を記載ください。本通信の感想やご要望もお気軽にどうぞ!

